

日本国特許庁(JP)

特許出願公告

特許公報(B2) 平1-53353

Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

特許公告 平成1年(1989)11月14日

C 23 C 22/28

5828-4K

発明の頁 1 (全7頁)

発明の名称	アルミニウム-亜鉛複合めっき鋼板の後処理法		
特 願	昭58-247391	特 公 開	昭60-145388
出 願	昭58(1983)12月30日	特 許 日	昭60(1985)7月31日
発 明 者	出 口 武 典	千葉県市川市高谷新町7番地の1	日新製鋼株式会社市川研究所内
発 明 者	高 村 久 雄	千葉県市川市高谷新町7番地の1	日新製鋼株式会社市川研究所内
発 明 者	片 山 喜 一 郎	千葉県市川市高谷新町7番地の1	日新製鋼株式会社市川研究所内
発 明 者	内 田 和 子	千葉県市川市高谷新町7番地の1	日新製鋼株式会社市川研究所内
発 明 者	興 石 肇 二	千葉県市川市高谷新町7番地の1	日新製鋼株式会社市川研究所内
発 明 者	公 文 史 城	千葉県市川市高谷新町7番地の1	日新製鋼株式会社市川研究所内
出 願 人	日新製鋼株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目4番1号	
代 理 人	弁 理 士 進 藤 満		
審 査 官	鈴 木 正 紀		

1

2

特許請求の範囲

1 クロム酸またはクロム酸塩あるいはこれらの両者と、水溶性樹脂またはエマルジョン樹脂あるいはこれらの両者とを含有する水溶液をアルミニウム-亜鉛複合めっき鋼板上に直接塗布した後乾燥して、乾燥後の皮膜厚が0.5~4μm、皮膜中のクロム含有量が5~50mg/cm²の樹脂皮膜を形成することを特徴とするアルミニウム-亜鉛複合めっき鋼板の後処理法。

発明の詳細な説明

本発明はアルミニウム-亜鉛浴で溶融めっきしたアルミニウム-亜鉛複合めっき鋼板に耐食性を付与し、かつ黒変色化を防止する後処理法に関する。

最近めっき鋼板に対する高耐食性の要求からアルミニウム-亜鉛浴で鋼板を溶融めっきしたアルミニウム-亜鉛複合めっき鋼板（以下Al-Zn複合めっき鋼板と略記する）が一部実用に供される

ようになってきている。このAl-Zn複合めっき鋼板にはめっき層がZnベースのAl-Zn合金のものとAlベースのAl-Zn合金のものがあるが、従来いずれのものもめっきしたままの状態で大気中や塩酸環境下におかれると、めっき直後のAl-Zn複合めっき鋼板特有の金属光沢が失われて灰黒色の外観（以下黒変色と略記する）となり、商品価値を著しく低下させるという欠点があった。この黒変色化は通常表面全体に均一には生じず、機械加工を受けた部分に優先的に生じ、早い場合には需要家にわたるまでに、遅くとも塗装や鍍に施工後2~3ヶ月の短期間内に生じていた。このためAl-Zn複合めっき鋼板の場合後処理を施さないで保管、出荷することは困難であった。

25 Al-Zn複合めっき鋼板に施す後処理としては従来より溶融亜鉛めっき鋼板や溶融アルミニウムめっき鋼板の後処理に一般に使用されているクロメート処理の適用が考えられるが、クロメート処